

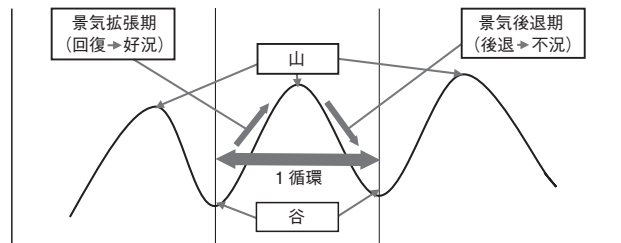
「景気循環」

景気は循環すると言われますが、この景気循環に4つの理論があるのをご存知でしょうか。今月はこの内容について説明いたします。

1. 景気循環とは

景気循環とは、経済全体の活動動向である景気において、循環的に見られる変動のことです。景気が一定の原因により決まった周期で恒常的・法則的に循環すると考える説を、景気循環論と言います。この変動を分析する際に使う景気循環局面については、1循環を拡張と後退の2局面に分ける考え方と、回復・好況・後退・不況の4局面に分割する考え方があり、内閣府では2局面分割を使用しています。これを説明すると、景気拡張（拡大）局面の最高点が山、景気後退局面の最低点が谷であり、谷から谷までが1循環とされます。

2局面分割



2. 景気循環の4つの理論

次に「経済がどのように循環するか」を理解する上で、今なお重宝される4つの理論について説明します。

(1) キチン循環（キチンの波）

約40カ月の比較的短い周期の景気循環で短期波動とも呼ばれます。企業の在庫変動に着目したもので、在庫投資の活動周期が景気循環に大きく影響しているという説です。

(2) ジュグラー循環（ジュグラーの波）

約10年周期の景気循環で中期波動とも呼ばれます。企業の設備と耐久年数が約10年程度であることから、設備投資の時期によって景気のサイクルが大きな影響を受けるという説です。

(3) クズネッツ循環（クズネッツの波）

約20年周期の景気循環です。建物や施設の建て替えや改修の周期が約20年程度であることから建築物の需要によって景気のサイクルが大きな影響を受けるという説です。

(4) コンドラチェフ循環（コンドラチェフの波）

約50年周期の景気循環で長期波動とも呼ばれます。技術革新に着目したもので、約50年周期で新しい画期的な技術が開発されて景気が盛り上がる反面、ある程度期間が過ぎれば飽和状態となり産業そのものが縮小するという説です。

4つの景気循環の内容

景気循環	周期	起因	別称	発見・解明者
キチン循環 (キチンの波)	約40カ月	在庫投資	在庫（投資）循環、 短期波動	キチン（生没不明） アメリカの経済学者
ジュグラー循環 (ジュグラーの波)	約10年	設備投資	設備投資循環、中期波動	ジュグラー（1819-1905） フランスの経済学者
クズネッツ循環 (クズネッツの波)	約20年	建築物の需要	建築（投資）循環	クズネッツ（1901-1985） アメリカの経済学者
コンドラチェフ循環 (コンドラチェフの波)	約50年	技術革新	長期波動	コンドラチェフ（1892-1938） ソ連の経済学者

閑話ひとつ

- ▶ 小生が無趣味であることは、このコラムで何度か触れております。したがって趣味とまでは言えませんが、美術館、博物館、庭園巡りは好きでちょくちょく出かけます。
- ▶ 今年1月には、京橋に再オープンした「アーティゾン美術館（旧ブリヂストン美術館）」に出かけてきました。すごい名画が所狭しと展示してあり、中でも青木繁の「海の幸」「わだつみのいろこの宮」や藤島武二の「天平の面影」「黒扇」は圧巻でした。
- ▶ 昔「住吉村反高林」という地区（現在の神戸市東灘区）には、住友家（泉屋博古館）、嘉納家（白鶴美術館）、朝日新聞の村山家（香雪美術館）、野村家（京都、野村美術館）、安宅家（安宅コレクション、東洋陶磁美術館収蔵）があり、こういった人たちがそろって私立美術館を設立したそうです。場所は違いますが、ほかに佐治家・鳥居家（サントリー美術館）、出光家（出光美術館）、東武・根津家（根津美術館）、大原家（大原美術館）など有名です。皆大富豪ですが、お金だけではなかったんですね。
- ▶ 小生は名画を鑑賞しながら、つい「いくらするんだろう。この絵が一枚でもあったらなあ…」なんて考えてしまいます。トホホ(〜;) 今は新型コロナウイルスの感染リスクから臨時休館している美術館も多いですが、落ち着いたら美術館巡りも良いですよ。但し、くれぐれも純粋な気持ちでの鑑賞をお願いします。（TA）